

$\lambda = \rho(A)$ なる固有値は他にどれくらいあるのか。例えば $\begin{pmatrix} 0 & 1 \\ 0 & 0 \end{pmatrix}$ の固有値は 1 と -1 である。

0.0.1 周期

行列 A をグラフ G に、既約を強連結に対応させる。

定義 1 周期 σ はすべての閉路の長さの最大公約数であり、 $\sigma=1$ のとき原始的という。

例えば $A = \begin{pmatrix} 0 & 1 \\ 0 & 1 \end{pmatrix}$ の場合閉路の長さは $1 \rightarrow 2 \rightarrow 1$ で 2 であり $\sigma = 2$

$A = \begin{pmatrix} 0 & 1 \\ 1 & 1 \end{pmatrix}$ の場合は閉路が $1 \rightarrow 2 \rightarrow 1$ と $2 \rightarrow 2$ で $\sigma = 1$

$I_k = \{i \in V \mid \text{点1から} i \text{は長さ} l (\equiv k \pmod{\sigma}) \text{で到達可能}\}$

$$P^T A P = \begin{matrix} & \xleftrightarrow{I_0} & \xleftrightarrow{I_1} & \xleftrightarrow{I_2} \\ \begin{matrix} I_0 \updownarrow \\ I_1 \updownarrow \\ I_2 \updownarrow \end{matrix} & & & \end{matrix} = \begin{pmatrix} 0 & A_1 & 0 \\ 0 & 0 & A_2 \\ A_3 & 0 & 0 \end{pmatrix} \quad (0.0.1)$$

以下では $\sigma = 3$ とする。

$$\begin{aligned} Ax &= \rho(A)x \\ \begin{pmatrix} 0 & A_1 & 0 \\ 0 & 0 & A_2 \\ A_3 & 0 & 0 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \\ x_3 \end{pmatrix} &= \rho(A) \begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \\ x_3 \end{pmatrix} \\ &\Leftrightarrow \begin{cases} A_1 x_2 = \rho(A) x_1 \\ A_2 x_3 = \rho(A) x_2 \\ A_3 x_1 = \rho(A) x_3 \end{cases} \end{aligned}$$

$\zeta = e^{\frac{2}{3}\pi i}$ として

$$x^{(1)} = \begin{pmatrix} x_1 \\ \zeta x_2 \\ \zeta^2 x_3 \end{pmatrix}, \quad x^{(2)} = \begin{pmatrix} x_1 \\ \zeta^2 x_2 \\ \zeta^4 x_3 \end{pmatrix} \text{ とおくと}$$

$$Ax^{(1)} = \begin{pmatrix} 0 & A_1 & 0 \\ 0 & 0 & A_2 \\ A_3 & 0 & 0 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} x_1 \\ \zeta x_2 \\ \zeta^2 x_3 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} A_1 \zeta x_2 \\ A_2 \zeta^2 x_3 \\ A_3 x_1 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} \zeta \rho(A) x_1 \\ \zeta^2 \rho(A) x_2 \\ \zeta^3 \rho(A) x_3 \end{pmatrix} = \zeta \rho(A) x^{(1)} \quad (0.0.2)$$

$$Ax^{(2)} = \cdots \zeta^2 \rho(A) x^{(2)} \quad (0.0.3)$$

したがって $\zeta^k \rho(A)$ ($k = 0, 1, \dots, n-1$) は A の固有値である。

$\lambda : A$ の固有値とすると

$$(A_1 A_2 A_3) x_1 = A_1 A_2 (\lambda x_3) = \cdots \lambda^3 x_1$$

より周期は 1 で実はスペクトル半径円上の固有値は $\rho(A_1 A_2 A_3)$ のみである。

伊理「一般線形代数」p.271 によると

$A \geq 0$, 既約なら $a_{ii} > 0$ ($\forall i$)

$\lambda \neq \rho(A)$ が A の固有値 $\Leftrightarrow |\lambda| < \rho(A)$ (スペクトル円上の A の固有値は $\rho(A)$ のみ)

$Au = \rho(A)u \quad u > 0$ とすると

$$U = \begin{pmatrix} u_1 & & & \\ & u_2 & & \\ & & \ddots & \\ & & & u_n \end{pmatrix} \quad \hat{A} = U^{-1}AU \text{ とする}$$

1 λ は \hat{A} の固有値

$$2 \sum_{j=1}^n \hat{a}_{ij} = \rho(A) \quad \hat{a}_{ij} = \frac{a_{ij}u_j}{u_i}$$

$$\text{だから } \sum_{j=1}^n \hat{a}_{ij} = \frac{\sum_{j=1}^n a_{ij}u_j}{u_i} = \frac{(Au)_i}{u_i} = \frac{(\rho(A)u)_i}{u_i} = \rho(A)$$

\hat{A} について Gershgorin の定理を使うと $r_i = \sum_{j \neq i} \hat{a}_{ij} = \rho(A) - \hat{a}_{ii}$
円板 $|\lambda - \hat{A}_{ii}| \leq r_i$ とスペクトル円の交わりは $\lambda = \rho(A)$ のみである.

系 1 $A > 0$ (正行列のみ) \Rightarrow スペクトル同士の固有値は $\rho(A)$ のみ

系 2 $a = 1 \Rightarrow$ スペクトル同士の固有値は $\rho(A)$ のみ

系 2 の証明は以下のとおりである.

$a = 1 \Rightarrow$ 十分に大きなすべての m について $A^m > 0$

λ が A の固有値で $|\lambda| = \rho(A)$ ならば λ^m は A の固有値で $|\lambda^m| = \rho(A)^m = \rho(A^m)$

系 1 を A^m に適用すると $\lambda^m = \rho(A^m) = \rho(A)^m$ であり m は十分大きなすべての数を動くので $\lambda = \rho(A)$

1 整数行列

1.1 単模 (ユニモジュラー行列)

$A = (a_{ij}) \quad a_{ij} \in \mathbb{Z} \quad$ いま $Ax = b$ を解くことを考える.

$$\exists x \in \mathbb{R}^n \Rightarrow \text{rank}([A|b]) = \text{rank}(A)$$

$$\exists x \in \mathbb{Z}^n \Rightarrow ?$$

定義 2 $Q : n \times n$ 整数行列が単模 $\Leftrightarrow \det Q \in \{1, -1\}$

定義 3 $Q : n \times n$ 整数行列が完全単模 $\Rightarrow Q$ は任意の正方部分行列 C について $\det C \in \{0, 1, -1\}$

Q : 整数行列の時以下はすべて同値.

(1) Q が単模行列

(2) Q^{-1} が整数行列

(3) x が整数ベクトル $\Leftrightarrow Qx$ が整数行列

(4) Q が整数行列に対する列基本変形を表す行列の積

(5) Q が整数行列に対する行基本変形を表す行列の積

$$(1) \rightarrow (2) \quad Q^{-1} = \frac{\text{余因子行列}}{\det Q}$$

(2) \rightarrow (1) $QQ^{-1} = I$ の行列式を考えて $\det Q \det Q^{-1} = 1$ いま Q^{-1} が整数行列なので $\det Q^{-1} \in \mathbb{Z}$ から $\det Q = 1, -1$

(2) \rightarrow (3) $Qx \in \mathbb{Z}^n$ について $y = Qx$ とおくと $x = Q^{-1}y \in \mathbb{Z}^n$

\mathbb{R} の場合の列基本変形は

- ある列を α 倍
- 2 つの列を入れ替える
- ある列 $\times \alpha$ を他の列に加える

\mathbb{Z} の場合は

- ある列を -1 倍
- 2 つの列を入れ替える
- ある列の整数倍を他の列に加える

1.2 エルミート標準形

$m \times n$ 行列 A のフルランク. 整数行列. $\text{rank}(A) = m \stackrel{?}{=} Q$ を単模行列として

$$AQ = \left(\begin{array}{ccc|c} \beta_{11} & & 0 & \\ \vdots & \ddots & & \\ \beta_{m1} & & \beta_{mn} & \\ \hline & & & 0 \end{array} \right)$$

下三角 $\beta_{ij} = 0 (i < j)$ で非負 $\beta_{ij} \leq 0, \beta_{ii} > 0$ 行方向に見たときに対角項が最大 $\beta_{ii} > \beta_{ij} (i > j)$

定理 1 任意の単模行列は列基本変形の積

単位行列 I に列基本変形を施して A になるならば A は単模行列 (列基本変形は \det を符号以外変えない).
また実は単模行列に列基本変形を施せばエルミート標準形になることを示す.

一つの行に着目する: $\boxed{a_1 a_2 \cdots a_n}$

1 いくつかの列を -1 倍して $a_1 \cdots a_n \geq 0$ とする.

2 列を入れ替えて $a_1 \geq a_2 \geq \cdots a_n \geq 0$ とする.

このとき $a_1 > 0$ である, なぜなら $a_1 = 0$ だとすべての行が 0 で行フルランクに反してしまうから.

3 列を互いに引き算する. $a_i = a_j q_i + r_i (a_i \geq a_j \text{ であり } q_i \in \mathbb{Z} > 0 \text{ で } r_i \text{ は余り})$ を計算し $a_i = r_i$ にして 2

に戻ること繰り返す.

もし $a_2 \neq 0$ ならば $a_1 - a_2$ が可能でありいつかは $a_2 = 0$ になる. それを他の行でも同じことをする.